

2020年度ブラッシュアッププログラム・講座概要

領域5. 継続的な教育開発と自己改善・キャリア開発	講座名：「ティーチング・ポートフォリオ（発展編）」 形式：講義と演習（対面/オンライン） 時間：90分	開講日時
		9月9日（水） 13:00～14:30 （接続は12:55） ソラティオスクエア TNec041 教室
講師	井上 史子（高等教育研究）	
到達目標	1. 教員自身の自己改善・キャリア開発とFDの関連を理解できる。（5-1-2 対応）	
事前学習課題	1. 自身がこれまでに作成したティーチング・ポートフォリオを印刷して持参して下さい。（印刷部数や範囲は受講者数が決まってから連絡します） 2. ポートフォリオの構成を考えますので、必要な方はPCなどを持参して下さい。 ※経験者向けです。ポートフォリオに関する基礎的な解説等を行いません。	
講座の流れ		分
セッション1 （対面/Zoom）	<p>*学外の方は12:55にZoomに接続してください。</p> <p>【全体活動】</p> <p>①自己紹介（共同化）</p> <p>②ティーチング・ポートフォリオの全体構成（共同化）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「教育の責任」「教育理念」「教育の実践」「今後の目標」「根拠資料」など、ティーチング・ポートフォリオの一般的な構成や一貫性のある記述などについて概説します。</li> </ul>	30
セッション2 （対面/Zoom）	<p>【個人活動】</p> <p>③自身のポートフォリオの全体構成を考える（表出化、連結化）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ワークシートを使い、自身のポートフォリオの全体構成を考えます。</li> <li>・ポートフォリオに記述する授業実践例や必要な根拠資料の抽出と整理を行います。</li> </ul>	30
セッション3 （対面/Zoom）	<p>【グループ活動】</p> <p>④ポートフォリオ構成案の共有（連結化・内面化）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・自身の構成案と根拠資料等の選択について、小グループで意見交換を行います。（振り返りシートへの記入）</li> <li>・1～2例を発表してもらい、講師よりコメントを行います。</li> </ul>	30
事後学習課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>・作成したティーチング・ポートフォリオは次回の更新のために保存しておきましょう。</li> <li>・振り返りシートの記入と事後アンケートの入力</li> </ul> <p>※学内の方は研修会場で記入できます。学外からZoomで参加されている方は、接続切断後各自でご記入のうえ研修当日を含めた3日以内にメールでご提出ください。</p>	
参考文献	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. ピーター・セルディン著、栗田佳代子ほか監訳『大学教育を変える教育業績記録 ティーチング・ポートフォリオ作成の手引』、玉川大学出版部、2007年</li> <li>2. ピーター・セルディン、エリザベス・ミラー著、川口昭彦、栗田佳代子ほか翻訳『アカデミック・ポートフォリオ』、玉川大学出版部、2009年</li> <li>3. 土持ゲーリー法一『ポートフォリオが日本の大学を変える～ティーチング/ラーニング/アカデミック・ポートフォリオの活用』、東信堂、2011</li> </ol>	

2020年度ブラッシュアッププログラム・講座概要

領域5. 継続的な教育開発と自己改善・キャリア開発	講座名：「大学教育の現状とFD活動の意義」 形式：講義（動画）と演習（対面/Zoom） 時間：90分	開講日時
		9月14日（月） 18：15～19：45 （集合は19：00） ソラティオスクエア TNec041 教室
講師	井上 史子（高等教育研究）	
到達目標	1. FD の概念、構造、制度基盤についての基礎知識を知る。（5-1-1 対応） 2. 教員自身の自己改善・キャリア開発とFD の関連を理解できる。（5-1-2 対応） 3. 大学のDP（自分流の達成）や教育理念（実学・国際性・開放性）に基づいた教育活動に貢献できる。（5-2-3 対応）	
事前学習課題	1. 映像資料「沖永帝京大学学長×フィンク博士FD対談」（CTL ホームページ <a href="https://appsv.main.teikyo-u.ac.jp/~ctl/newsletter/fd_talk.html">https://appsv.main.teikyo-u.ac.jp/~ctl/newsletter/fd_talk.html</a> ）を視聴する。 2. 映像資料「カテゴリ：高等教育リテラシー形成、テーマ：『大学教員の役割とキャリアステージ』、講師：羽田貴史（東北大学） <a href="http://www.ihe.tohoku.ac.jp/CPD/PDPonline/">http://www.ihe.tohoku.ac.jp/CPD/PDPonline/</a> 」を視聴し、自身の研修目標（研修に期待することや、授業改善目標など）を考えてくる。	
講座の流れ		分
セッション1 （動画視聴）	<p><b>【個人活動】</b> 当日までに各自でセッション1, 2の動画を視聴して下さい。研修当日の<b>18:15</b>より会場で視聴することも可能です。</p> <p>①オリエンテーション ・新任教員研修プログラムの流れと修了に関する説明を行います。</p> <p>②大学教育の現状やFD活動の意義について ・現代の大学教育の課題やFD活動を行なう意義について、講義形式で概説します。</p> <p><b>【視聴課題】</b> 動画を視聴し、大学教授職としてのキャリア形成にどのようにFDが関わると思うか、自身の考えを簡潔にまとめてみましょう。（セッション3で使用します）</p>	30
セッション2 （動画視聴）	<p>③CTLが提供するFDサービス ・CTLが実施するFDサービス（高等教育研究開発部門、教育方法研究支援室、教学IR推進室）について情報共有を行います。</p> <p><b>【視聴課題】</b> 動画を視聴し、紹介されているもの以外に、こういったものがあればと思うFDサービスを考えてみましょう。（セッション3で使用します）</p>	20
セッション3 （対面/Zoom）	<p><b>【グループ活動】</b> 19:05より開始します。学内の方は19:00迄に会場に集合ください。学外の方はZoomにログインしてください。</p> <p>④セッション1, 2での視聴課題をもとにした意見交換（グループワーク、共同化・表出化） ※ 始めに、全員で簡単な自己紹介を行います。（5分） ・授業に関する課題や今後取り組んでみたいことなどについてグループで意見交換を行います。（20分） ・全体で意見交換の結果を発表します。（5分）</p>	30
事後学習課題	<p><b>【個人活動】</b> 学内の方は研修会場で記入できます。学外からZoomで参加されている方は、接続切断後各自でご記入のうえ研修当日を含めた3日以内にメールでご提出ください。</p> <p>⑤振り返りシートの作成と事後アンケートの入力（内面化）</p>	10
参考文献	<p>1. 映像資料「カテゴリ：高等教育リテラシー形成、テーマ：『大学教育改革のトレンドと日本が目指すべき21世紀の学士課程教育像』、講師：小笠原正明（北海道大学）<a href="http://www.ihe.tohoku.ac.jp/CPD/PDPonline/">http://www.ihe.tohoku.ac.jp/CPD/PDPonline/</a>」を視聴し、21世紀の大学が目指す学士教育や大学教員のあり方等について基礎的知識を得る。（※講座内でのビデオに関する解説などは行いません。映像に関する視聴手続き等は受講開始前に案内します。）</p> <p>2. 東北大学高度教養教育・学生支援機構 刊行物より、『ファカルティ・ディベロップメントを超えて - 日本・アメリカ・カナダ・イギリス・オーストラリアの国際比較』（2009年、<a href="http://www.ihe.tohoku.ac.jp/?page_id=700">http://www.ihe.tohoku.ac.jp/?page_id=700</a>）</p> <p>3. ジョン・タグ「教育から学習への転換—学士課程教育の新しいパラダイム」『主体的学び』（創刊号）（東信堂、2014年）</p>	

2020 年度ブラッシュアッププログラム・講座概要

領域 2. 授業のデザイン (目標設定、実施計画、成績評価)	講座名：シラバスの作成と授業の到達目標の書き方 形式：講義（動画）と演習（対面/Zoom） 時間：90 分	開講日時 9 月 28 日（月） 18：15～19：45 （集合は 19：00） ソラティオスクエア TNec041 教室
講師	安岡 高志（高等教育研究）	
到達目標	1. 単位制度とは何か説明できる。(2-1-1 対応) 2. シラバスの必要性を説明できる。(2-1-1 対応) 3. 授業の到達目標が適切に書ける (2-2-1 対応)	
事前学習課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 大学設置基準の(単位)第 21 条をよく読んで、単位とはどのようなものか、その意味を考えてきてください。</li> <li>・ これまでに自身で作成したシラバスがあれば 1～2 件持参してください。</li> </ul>	
講座の流れ		
セッション 1 (動画視聴)	<p>【個人活動】当日までにセッション 1 を視聴し、セッション 2 まで進めて集合してください。研修当日の <b>18：15</b> より会場での視聴も可能です。</p> <p>① 単位制度に関する基礎知識と単位制度におけるシラバスの必要性について概説（共同化）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 単位制度の趣旨と大学設置基準にしたがうと、シラバスに書かなければならない事柄は何かというシラバスの基本枠組みについて概説します。また、授業の到達目標の書き方についても解説します。</li> </ul>	分 30
セッション 2 (セッション 1 の視聴後 自習)	<p>② 個人ワーク（表出化）</p> <p>【視聴課題】シラバスの基本枠組みと自身で作成したシラバスを比較し、相違点を抽出した後、必要に応じて改訂を行います。(セッション 3 で使用します。)</p>	分 15
セッション 3 (対面/Zoom)	<p>【グループ活動】学内の方は 19:00 迄に会場に集合ください。学外の方は Zoom にログインしてください。</p> <p>③ グループ内でシラバスの改訂内容の紹介と意見交換（連結化）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 改訂内容を中心にグループ内でシラバスを紹介し、最も大きな変化のあったシラバスを選びます。選ばれたシラバスについては発表していただき、全体共有します。</li> </ul>	分 40
事後学習課題	<p>【個人活動】（内面化）</p> <p>④ 振り返りシートの作成と事後アンケートの入力 ※学内の方は研修会場で記入できます。学外から Zoom で参加されている方は、接続切断後各自でご記入のうえ研修当日を含めた 3 日以内にメールでご提出ください。</p> <p>⑤ 講座での学びを活かし、今年度のシラバスの改善点を振り返りシートに記述する。</p>	分 5
参考文献	1. 大学設置基準 昭和 31 年 10 月 22 日 文部省令第 28 号 <a href="http://www.kyoto-u.ac.jp/uni_int/kitei/reiki_honbun/w002RG00000949.html">http://www.kyoto-u.ac.jp/uni_int/kitei/reiki_honbun/w002RG00000949.html</a> 2. 舘 昭 『改めて「大学制度とは何か」を問う』東信堂 2007 3. B.G.Davis 著、香取草之助監訳『授業の道具箱』東海大学出版会 2002	

2020年度ブラッシュアッププログラム・講座概要

領域4. 成績の評価、フィードバック	講座名：「大学授業の成績評価について考える」 形式：講義と演習（対面/オンライン） 時間：90分	開講日時
		10月5日（月） 18：15～19：45 （接続は18：10） ソラティオスクエア TNec041 教室
講師	新原 将義（高等教育研究開発）	
到達目標	1. 成績評価の意義と目的、方法と特徴について理解できる（4-1-1、4-1-3 対応） 2. 学習目標に合わせて、成績評価の基準と方法、成績評価のフィードバック等を適切にデザインできる。（4-2-1 対応）	
事前学習課題	1. 映像資料「カテゴリ：高等教育リテラシー形成、テーマ：『授業デザインとシラバス作成』、講師：串本 剛（東北大学） <a href="http://www.ihe.tohoku.ac.jp/CPD/PDPonline/archive/index.php?page=1&amp;search=&amp;c=1&amp;k=&amp;p=">http://www.ihe.tohoku.ac.jp/CPD/PDPonline/archive/index.php?page=1&amp;search=&amp;c=1&amp;k=&amp;p=</a> 」を視聴し、成績評価に関する基礎的知識を得る。（※講座内でのビデオに関する解説などは行いません。映像に関する視聴手続き等は年度初めに案内します。） 2. 1を視聴し、成績評価に関する自身の課題などをまとめる（形式自由）。 3. 自身が授業で用いている成績評価方法に関する資料があれば持参する。	
講座の流れ		分
セッション1	<p><b>*学外の方は18：10にZoomに接続してください。</b></p> <p><b>【全体活動】</b></p> <p>① 成績評価の基本（共同化）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>大学授業の質保証と授業の成績評価との関連、成績評価の手法について、講師より基礎的な知識提供を行います。</li> <li>その後グループになり、事前課題2、3について意見交換を行います。</li> </ul>	40
セッション2	<p><b>【全体活動】</b></p> <p>② 自身の授業における成績評価の現状の共有（共同化）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>セッション1での意見交換の結果をグループごとに発表し、全体での情報共有を行いません。</li> </ul>	10
セッション3	<p><b>【個人活動】</b></p> <p>③ 自身の授業における成績評価の現状分析（共同化・表出化）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>自身の授業における成績評価の現状について、ワークシートを用いて分析を行います。</li> </ul>	20
セッション4	<p><b>【全体活動】</b></p> <p>④ 改善方法についてのグループディスカッション（表出化・連結化）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>互いの授業の成績評価の現状について情報共有をし、今後の改善方法について意見交換を行います。</li> </ul>	15
事後学習課題	<p><b>【個人活動】</b></p> <p>⑤ 振り返りシートの作成と事後アンケートの入力（内面化） ※学内の方は研修会場で記入できます。学外からZoomで参加されている方は、接続切断後各自でご記入のうえ研修当日を含めた3日以内にメールでご提出ください。</p> <p>⑥ 研修の内容をもとに、今後の授業における成績評価の改善方法について検討し、実行してみてください。</p>	5
参考文献	<p>1. ダネル・スティーブンス、アントニア・レビ著、佐藤浩章監訳、井上敏憲、俣野秀典訳『大学教員のためのルーブリック評価入門』、玉川大学出版</p> <p>2. 松下佳代「パフォーマンス評価による学習の質の評価—学習評価の構図の分析にもとづいて—」、京都大学高等教育研究第18号、2012、pp.75-114</p> <p>3. 溝上慎一『アクティブラーニングと教授学習パラダイムの転換』、東信堂、2014</p> <p>4. 梶田叡一『教育評価』、有斐閣双書、2005</p>	

2020年度ブラッシュアッププログラム・講座概要

領域2. 授業のデザイン (目標設定、実施計画、成績評価)	講座名：「データによる授業改善のすすめ ～大学における教育の質保証とIR～」 形式：講義と演習(対面/zoom) 時間：90分	開講日時
		10月26日(月) 18:15～19:45 (接続は18:10) ソラティオスクエア TNec041教室
講師	川面 きよ (教学IR推進室)	
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 授業で取得できる成果検証のためのデータとその収集方法について理解する(2-2-5対応)</li> <li>2. 成果検証に適した指標と基準を設定することができるようになる(2-2-5対応)</li> <li>3. 検証結果をもとに授業の学習目標や授業計画をリデザインできるようになる(2-2-5対応)</li> </ol>	
事前学習課題	*受講者へ後日お知らせします。	
講座の流れ		分
セッション1 (対面/Zoom)	<p>*学外の方は<b>18:10</b>にZoomに接続してください。</p> <p><b>【全体活動】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>●大学における教育の質保証と授業改善(共同化) <ol style="list-style-type: none"> <li>①大学における教育の質保証とIR(5分)</li> <li>②授業における成果検証のためのIR(5分)</li> </ol> </li> <li>●授業改善のためのデータ収集と成果検証(共同化) <ol style="list-style-type: none"> <li>①授業でデータを取得する目的(5分)</li> <li>②授業で取得できるデータの種類(5分)</li> <li>③データの収集と検証事例の紹介(10分)</li> </ol> </li> </ul>	30
セッション2 (対面/Zoom)	<ul style="list-style-type: none"> <li>●データを用いた授業改善のためのワークショップ①(表出化) <p><b>【個人活動】</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>①データを用いた授業改善のためのワークショップ</li> </ol> <p>改善したい授業の問題点を整理した上で、改善したかどうかを判断するためのデータの選択、判断のための指標と基準、条件について、ワークシートを作成する</p> </li> </ul>	10
セッション3 (対面/Zoom)	<p><b>【グループ活動】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>●データを用いた授業改善のためのワークショップ②(連結化) <ol style="list-style-type: none"> <li>②作成したワークシートについてグループ内で説明し、意見交換を行います。</li> <li>③ワークショップの総括(10分)</li> </ol> </li> </ul>	40
事後学習課題	<p><b>【個人活動】</b>学内の方は研修会場で記入できます。学外からZoomで参加されている方は、接続切断後各自でご記入のうえ研修当日を含めた3日以内にメールでご提出ください。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>●振り返りシートの作成と事後アンケートの記入(内面化)</li> </ul>	10
参考文献	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 『大学のIR:意思決定支援のための情報収集と分析』慶應義塾大学出版部、小林雅之ほか編、(2016)</li> <li>2. 平成24-25年度文部科学省先導的・大学の改革推進委託事業「大学におけるIRの現状と在り方に関する調査研究」全国大学IR調査</li> <li>3. 『大学IRスタンダード指標集』関東地区IR研究会監修、松田岳士ほか編、玉川大学出版部、(2017)</li> <li>4. 『学生による授業評価の現在』東北大学高等教育開発推進センター編、東北大学出版会、(2010)</li> </ol>	

2020年度ブラッシュアッププログラム・講座概要

領域2. 授業のデザイン (目標設定、実施計画、成績評価)	講座名：「インストラクショナルデザインに基づく授業設計の確認と教材チェック（理論編）」 形式：講義（動画）と演習（対面/Zoom） 時間：90分	開講日時 11月16日（月） 16：30～18：00 （集合は17：30） ソラティオスクエア TNec041 教室
講師	宮原 俊之（教育方法研究支援）	
到達目標	1. 「インストラクショナルデザイン」とは何かを説明できる。（2-1に対応） 2. インストラクショナルデザインの視点（講座で取り扱った内容：本学 DP もその一つ）から、自らの授業設計の特徴についてチェックできる。（2-2に対応）	
事前学習課題	1. 現在授業で使用している教材を持参して下さい。（1回～2回分程度）	
講座の流れ	分	
※当日までに各自でセッション1およびセッション2の動画を視聴し、視聴課題に取り組んでください。研修当日の16:30より会場で視聴することも可能です。		
セッション1 (動画視聴)	①授業設計の全体像を知る（共有化フェーズ） ・インストラクショナルデザインを通して、授業設計の全体像について概説します。 【視聴課題】動画の中に出てくる問いかけについて簡潔にまとめておきましょう（セッション4で使用します）。	15
セッション2 (動画視聴)	②システム的な授業設計・開発の手順を知る（共有化フェーズ） ・システム的な授業設計・開発の全体的な手順を紹介した上で、特に、授業の組み立て [ガニエの9教授事象]、動機づけ [ARCSモデル]、授業・教材の評価 [形成的評価] について、取り上げます。 【視聴課題】動画の中に出てくる問いかけについて簡潔にまとめておきましょう（セッション4で使用します）。	35
※セッション3は、セッション1およびセッション2の動画視聴後に取り組んでください。研修当日、動画視聴に引き続き会場で行うことも可能です。		
セッション3	③授業設計理論を理解するためのワーク1（表出化・連結化フェーズ） ・セッション2で取り上げた理論に関するワークを少しだけ行います（結果をセッション4で使用します）。	15
※セッション4は、グループ活動中心となります。対面またはZoomでの参加が必要です。17:35より開始します。17:30には会場に集合するか、またはZoomにログインしてください。		
セッション4 (対面/Zoom)	④授業設計理論を理解するためのワーク2（表出化・連結化フェーズ） ・ここまでの各セッションでの取り組みを踏まえて、グループ内で自分の授業設計における特徴について説明し、意見交換を行います。 ・全体で意見交換の結果を発表します。	25
事後学習課題	1. 振り返りシートの作成と事後アンケートの入力。（内面化） ※学内の方は研修会場で記入できます。学外からZoomで参加されている方は、接続切断後各自でご記入のうえ研修当日を含めた3日以内にメールでご提出ください。 2. 講座での学びを活かし教材の見直しを行った場合は、その内容（チェックした点、改訂した点など）をまとめてください。	
参考文献	1. R. Mガニエ・W. Wウェイジャー・K. C. ゴラス・J. M. ケラー著、鈴木克明・岩崎信監訳『インストラクショナルデザインの原理』、北大路書房(2007) 2. C.M.ライゲルース、A.A.カー=シュルマン著・編集、鈴木克明、林雄介監修・編集『インストラクショナルデザインの理論とモデル：共通知識基盤の構築に向けて』、北大路書房(2016) 3. J. M. ケラー著、鈴木克明監訳『学習意欲をデザインする—ARCSモデルによるインストラクショナルデザイン』、北大路書房(2010)	

2020年度ブラッシュアッププログラム・講座概要

領域3. 教育の実践	講座名：「インストラクショナルデザインに基づく授業設計の確認と教材チェック（演習編）」 形式：講義と演習（対面/Zoom） 時間：90分	開講日時
		11月16日（月） 18：15～19：45 （接続は18：10） ソラティオスクエア TNec041 教室
講師	宮原 俊之（教育方法研究支援）	
到達目標	1. インストラクショナルデザインの視点（講座で取り扱った内容：本学 DP もその一つ）から教材をチェックした結果をまとめることができる。（3-1 および 3-2 に対応） 2. ①でまとめた結果から、実際の授業の改善を行うことができる（3-1 および 3-2 に対応）	
事前学習課題	1. 現在授業で使用している教材（内容を見直したいと思っているものがあればその教材）を持参して下さい。（1回～2回分程度） 2. 内容を見直したい教材の場合は、どうして見直したいのかをまとめておきましょう。	
講座の流れ		分
<p>※18:15より開始します。<u>学内の方は18:10迄に会場に集合ください。学外の方はZoomにログインしてください。</u></p> <p>※本講座は、理論編に引き続き受講する方が多いため、個人作業もありますが、講座全体について対面またはZoomでの受講となります。</p>		
セッション1 （対面/Zoom）	①授業設計の全体像と体系的な授業設計・開発の手順を確認する（共有化フェーズ） ・理論編で取り上げた内容（インストラクショナルデザインを通しての授業設計の全体像、授業の組み立て [ガニエの9教授事象]、動機づけ [ARCSモデル]、授業・教材の評価 [形成的評価] など）について確認します。	15
セッション2 （対面/Zoom）	②教材チェックのワーク（表出化・連結化フェーズ） ・各自、持参した教材の1回分を選び、理論編やセッション1での学びを利用しチェックします（個人作業）。 ・グループ内で各自のチェック内容について説明し、意見交換を行います。 ※Zoomによる受講者については、個人作業時に一時的にZoomよりログアウトすることも可能ですが、ログインした状態であれば、講師へ適宜質問しながら取り組むことができます。	60
セッション3 （対面/Zoom）	③全体での共有（表出化・連結化フェーズ） ・グループ内での意見交換における気づきを全体で共有します。	15
事後学習課題	1. 振り返りシートの作成と事後アンケートの入力。（内面化） ※学内の方は研修会場で記入できます。学外からZoomで参加されている方は、接続切断後各自でご記入のうえ研修当日を含めた3日以内にメールでご提出ください。 2. 講座での学びを活かし教材の見直しを行った場合は、その内容（チェックした点、改訂した点など）をまとめてください。	
参考文献	1. R. Mガニエ・W. Wウェイジャー・K. C. ゴラス・J. M. ケラー著、鈴木克明・岩崎信監訳『インストラクショナルデザインの原理』、北大路書房(2007) 2. C.M.ライゲルース、A.A.カー＝シェルマン著・編集、鈴木克明、林雄介監修・編集『インストラクショナルデザインの理論とモデル：共通知識基盤の構築に向けて』、北大路書房(2016) 3. J. M. ケラー著、鈴木克明監訳『学習意欲をデザインする—ARCSモデルによるインストラクショナルデザイン』、北大路書房(2010)	

2020年度ブラッシュアッププログラム・講座概要

領域5. 継続的な教育開発と自己改善・キャリア開発	講座名：「ルーブリックについて知る（未経験者向け）」 形式：講義と演習（対面/オンライン） 時間：90分	開講日時
		11月25日（水） 18：15～19：45 （接続は18：10） ソラティオスクエア TNec041 教室
講師	新原 将義（高等教育研究開発）	
到達目標	4. 多様な評価の方法とその特徴について理解できる（4-1-3 対応） 5. 学習目標に合わせて、成績評価の基準と方法、成績評価のフィードバック等を適切にデザインできる。（4-2-1 対応）	
事前学習課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ ルーブリックを活用したいと考えている授業のシラバス 1~2 件を持参してください。</li> <li>・ これまでに自身で作成したルーブリックがあれば持参してください。</li> </ul> ＊その他の事前課題については、実施前に連絡します。	
講座の流れ		分
セッション1	＊オンライン参加の方は <b>18：10</b> に Zoom に接続してください。 <b>【全体活動】</b> ① ルーブリック使用経験の情報共有（共同化） <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 自身がこれまでにに行った、ルーブリックを活用した取り組みについて情報共有を行います。</li> </ul>	10
セッション2	<b>【全体活動】</b> ② ルーブリックの基本と活用例 <ul style="list-style-type: none"> <li>・ ルーブリックについての基本情報と活用例について概説します。</li> </ul>	30
セッション3	<b>【個人活動】</b> ③ ルーブリック作成のミニワーク（表出化） <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 自身の授業について用いるルーブリックを作成します。</li> </ul>	25
セッション4	<b>【全体活動】</b> ④ グループディスカッション（連結化） <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 作成したルーブリックについて意見交換を行います。</li> </ul>	20
事後学習課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 振り返りシートの作成と事後アンケートの入力（内面化）</li> </ul> ※学内の方は研修会場で記入できます。学外から Zoom で参加されている方は、接続切断後各自でご記入のうえ研修当日を含めた3日以内にメールでご提出ください。 <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 研修の内容をもとに、今後の授業におけるルーブリックの活用について検討してみてください。</li> </ul>	5
参考文献	2. ダネル・スティーブンス & アントニア・レビ著，佐藤浩章監訳，井上敏憲・俣野秀典訳『大学教員のためのルーブリック評価入門』，玉川大学出版部（2014） 3. 沖裕貴「大学におけるルーブリック評価導入の実際— 公平で客観的かつ厳格な成績評価を目指して—」，立命館高等教育研究 14 号，2014，pp.71-90 4. 梶田叡一『教育評価』，有斐閣双書，2005 5. 田中耕治『教育評価の未来を拓く—目標に準拠した評価の現状・課題・展望—』 ミネルヴァ書房，2003 6. スー・F・ヤング & ロバート・J・ウィルソン著，土持ゲーリー法一監訳，小野恵子訳『「主体的学び」につなげる評価と学習方法—カナダで実践される ICE モデル』，東信堂（2013）	

2020 年度ブラッシュアッププログラム・講座概要

領域 3. 教育の実践	講座名：初年次ライティング指導の理論と方法 形 式：講義と演習（対面/Zoom） 時 間：90 分	開講日時
		11 月 12 日（木） 16：30～18：00 （接続は 16:25） ソラティオスクエア S511 教室
講師	山下 由美子	
到達目標	1. 初年次ライティングを取り巻く背景や現状についての基礎知識がある。（3-1-1 対応） 2. 学生の学習を促す授業の準備、授業運営を行う。（3-2-2 対応）	
事前学習課題	1. 事前学習資料の 2 つのレポートは、初年次学生が書いたものです。それぞれのレポートを読み比べてみてください。 2. それぞれのレポートに高い評価と低い評価をつけ、つけた理由を考えてみてください。	
講座の流れ		分
セッション 1	<p>*学外の方は <b>16：25</b> に Zoom に接続してください。</p> <p>【全体活動】</p> <p>①初年次ライティング科目を取り巻く現状（共同化）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・初年次ライティング科目設置の動向を概観し、本学の取り組みを含め、講義形式で解説します。</li> </ul>	20
セッション 2	<p>【グループ活動】</p> <p>※始めに、グループ内で簡単に自己紹介を行います。（5 分）</p> <p>②よいレポート例とダメなレポート例の比較およびレポート評価についての意見交換（共同化・表出化）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・事前課題の 2 つのレポートの違いについて、グループで情報共有をします。</li> <li>・よいレポートとダメなレポートをどう判断しているか、すべきかについて意見交換を行います。→その後、全体共有をします。（30 分）</li> </ul>	30
セッション 3	<p>【個人活動】</p> <p>③学生に書かせたいレポートイメージの明確化（表出化）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・これまで学生に課したレポート課題と学生に書かせたいレポートイメージ＝自身が最も重視したいところについて、ワークシートを用いて分析を行います。（15 分）</li> </ul>	15
セッション 4	<p>【全体活動】</p> <p>④グループディスカッション（表出化・連結化）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・学生に書かせたいレポートイメージ＝自身が重視したいところを明確にするための今後の改善方法について意見交換をします。</li> </ul>	15
事後学習課題	<p>【個人活動】学内の方は研修会場で記入できます。学外から Zoom で参加されている方は、接続切断後各自でご記入ください。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・振り返りシートの作成と事後アンケートの記入（内面化）</li> </ul>	10
参考文献	<p>1. 関西地区 FD 連絡協議会・京都大学高等教育研究開発推進センター（編集）『思考し表現する学生を育てるライティング指導のヒント』（ミネルヴァ書房、2013 年）</p> <p>2. 仲道雅輝・山下由美子・湯川治敏・小松川浩『大学初年次における日本語教育の実践：大学における学習支援への挑戦 3』（ナカニシヤ出版、2018 年）</p> <p>3. 成瀬尚志『学生を思考にいざなうレポート課題』（ひつじ書房、2016 年）</p> <p>4. 文部科学省「平成 28 年度の大学における教育内容等の改革状況について（概要）」</p>	

	( <a href="https://www.mext.go.jp/a_menu/koutou/daigaku/04052801/__icsFiles/afieldfile/2019/05/28/1417336_001.pdf">https://www.mext.go.jp/a_menu/koutou/daigaku/04052801/__icsFiles/afieldfile/2019/05/28/1417336_001.pdf</a> )
--	---

2020年度ブラッシュアッププログラム・講座概要

領域3. 教育の実践	講座名：ICT環境を効果的に活用した授業設計 形式：講義（動画）と演習（対面/Zoom） 時間：90分	開講日時
		11月30日（月） 18：15～19：45 （集合は18：50） ソラティオスクエア TNec041教室
講師	安部 健太（教育方法研究支援）	
到達目標	① ICT活用の目的や授業での効果的な活用場面について説明できる（3-1対応） ② ICT環境において本学のDPを踏まえた「学生が主体的に学ぶ授業」の準備を行うことができる（3-2対応）	
事前学習課題	1. 現在授業で使用している教材を持参してください（1-2回程度分）。 2. 現在授業が行われている授業の形式、学生数、教室に配備されたICT環境などを確認してください。	
講座の流れ		分
※当日までに各自でセッション1の動画を視聴し、視聴課題に取り組んでください。 研修当日の18:15より会場で視聴することも可能です。		
セッション1 （動画視聴）	① ICT活用の目的や活用方法の概説（共有化フェーズ） ・ICTの特性と、授業でICTを活用するためのチェックポイントを概説します。 【視聴課題】動画の中に出てくる問いかけについて簡潔にまとめておきましょう（セッション3で使用します）。	35
※セッション2は、セッション1の動画視聴後に取り組んでください。 研修当日、動画視聴に引き続き会場で行うことも可能です。		
セッション2	② 授業設計のチェック（表出化フェーズ） ・現在の授業をどのように組み立てているか、持参した教材について、セッション1での学びを参照しチェックします（セッション3で使用します）。	15
※セッション3は、グループ活動中心となります。対面またはZoomでの参加が必要です。 19:05より開始します。19:00には会場に集合するか、またはZoomにログインしてください。		
セッション3 （対面/Zoom）	③ 全体での共有（表出化・連結化フェーズ） ・はじめに、セッション2までの振り返りを行います。（5分） ・ここまでの各セッションでの取り組みを踏まえて、グループ内で各自の授業設計について説明し、意見交換を行います。（20分） ・グループ内での意見交換における気づきを全体で共有します。（15分）	40
事後学習課題	・振り返りシートの作成と事後アンケートの入力。（内面化） ※学内の方は研修会場で記入できます。学外からZoomで参加されている方は、接続切断後各自でご記入のうえ研修当日を含めた3日以内にメールでご提出ください。	
参考文献	1. ICT活用能力を持つ教員養成のための教材開発委員会. (2015). 『教員養成・研修テキスト（情報教育）—ICT活用指導力UPのためのハンドブッカー』. 2. デンプシー, J. V. 鈴木克明・合田美子（監訳）(2013). インストラクショナルデザインとテクノロジー：教える技術の動向と課題. 北大路書房.	

2020年度ブラッシュアッププログラム・講座概要

領域 4. 成績の評価、フィードバック	講座名：「現在のルーブリックを更新する（経験者向け）」 形式：演習（対面/Zoom） 時間：90分	開講日時
		12月2日（水） 18：15～19：45 （接続は18：10） ソラティオスクエア CTL 研修室
講師	井上 史子（高等教育研究）	
到達目標	1. 使い慣れた評価手法を更新できる（4-2-1 対応） 2. 大学や学部・学科のDPの達成をより意識した評価活動ができる。（4-2-2 対応）	
事前学習課題	1. 自身がこれまでに作成したルーブリックを1部印刷して持参して下さい。 2. 自身のルーブリック活用経験や、活用する上で困っていること等の考えをまとめてきてください。 3. ルーブリックの手直しを行いますので、必要な方はPCなどを持参して下さい。 ※経験者向けですので、講座内でルーブリックに関する解説等はいりません。	
講座の流れ		分
セッション1 (対面/Zoom)	*学外の方は <b>18：10</b> にZoomに接続してください。 【全体活動】 ①自己紹介（共同化） ②自身のこれまでのルーブリック活用経験を発表する（共同化・表出化） ・ルーブリックを活用した成功事例や失敗事例、困っていること等を演習形式で他者と共有します。	15
セッション2 (対面/Zoom)	【グループ活動】 ③ルーブリック作成のグループワーク（表出化） ・グループで1つの課題ルーブリックを作成します。 ④気づきの共有（連結化） 各グループで、他者とルーブリックを作成する上での気づき等について意見交換を行います。（振り返りシートの記入）	45
セッション3 (対面/Zoom)	【個人活動】 ⑤自身のルーブリックの更新作業（個人、連結化・内面化） ・持参したルーブリックの手直しを行います。対面での参加者には随時、講師やファシリテータが個別にコメントを行います。オンラインでの参加者にはその場での個別コメントは行いませんが、 <u>希望者には</u> 、研修後に更新したルーブリックをメール等で送付いただければコメント等を入れて返信いたします。	30
事後学習課題	・振り返りシートの作成と事後アンケートの入力 ※学内の方は研修会場で記入できます。学外からZoomで参加されている方は、接続切断後各自でご記入のうえ研修当日を含めた3日以内にメールでご提出ください。 ・更新したルーブリックはぜひ実際の授業等で使ってみましょう。	
参考文献	1. ダネル・スティーブンス & アントニア・レビ著、佐藤浩章監訳、井上敏憲・俣野秀典訳『大学教員のためのルーブリック評価入門』、玉川大学出版部（2014） 2. AAC&U (Association of American Colleges & Universities) <a href="http://www.aacu.org/value/rubrics/">http://www.aacu.org/value/rubrics/</a> 3. 中島英博監修『シリーズ大学の教授法4 学習評価 11章ルーブリックを活用して評価する』玉川大学出版、pp. 129-139、2018	

2020年度ブラッシュアッププログラム・講座概要

領域3 教育の実践	講座名：改正著作権法 35 条を反映した授業教材開発 形式：講義と演習（対面/Zoom） 時間：90分	開講日時
		11月11日（水） 18：15～19：45 ソラティオスクエア TNec041 教室
講師	木村 友久（共通教育センター）	
到達目標	1. 学生の学習を促す授業の準備、授業運営を行うことができる。（3-2-1 対応） 2. 学生の授業での反応や学習段階等を考慮した教材開発の意義や効果について知る。改正著作権法 35 条を踏まえた教材開発ができる。（3-1-2 対応）	
事前学習課題	1. 下記サイトから授業動画等を視聴・閲覧して、構成内容や問題点を検討して下さい。 <a href="https://www.kim-lab.info/domescon/t2020ip_el/2020ip_el.html">https://www.kim-lab.info/domescon/t2020ip_el/2020ip_el.html</a> これは、今年の春学期「法学Ⅰ」用に授業と並行して作成したサイトです。第4章までは講師の顔は静止画、第5章以降は動画パターンとなっています。全ての視聴は必要ありません、授業教材作成のヒントとして部分的に視聴して下さい。必ずしも教材は動画だけではありませんので、配置された各章のスライドも参考にして下さい。 ※第2章から4章は著作権法入門です。 2. 教材開発を予定する一つの授業コマを想定して、学生が当該授業を受講する前に修得すべき知識やスキルを簡単にまとめて下さい。同様に、学生が当該授業後に受講することが望ましい科目（あるいは修得すべき発展的知識やスキル）をまとめて下さい。 3. 下記は参考資料です、興味のある方はご参照下さい。知財教育分野で学生の反応をフィードバックしながら、教材開発を含む授業改善を行った実践例紹介です。 <a href="https://www.kim-lab.info/2019_kimura.pdf">https://www.kim-lab.info/2019_kimura.pdf</a>	
講座の流れ		分
セッション1 （対面/Zoom）	<p><b>*学外の方は 18：10 に Zoom に接続してください。</b></p> <p>①本講座の全体像説明と意義（共同化） ②授業実践を進めながら、学生アンケートや定期試験結果を参考に教材開発を行った実践事例の説明。 ③授業アンケートを参考に、次週の授業用に学生の理解を促す簡易な教材を用意した実践事例の説明。 ④改正著作権法 35 条施行で新たに可能となった内容の解説と具体的な教材開発の事例説明。</p>	30
セッション2 （対面/Zoom）	<p>④本講座の受講者が企画する教材開発で、想定される授業教材と学生の過去から将来に至る学習内容との関連性を検討する。（表出化、連結化） ⑤教材開発、あるいは開発プランの作成と検討。</p>	25
セッション3 （対面/Zoom）	<p>⑥前記⑤で作成した教材、プランについて意見交換を行うとともに、Society 5.0 の到来を見越した文理横断型教育用教材の開発について受講者の皆様と意見交換を行います。（表出化、連結化）</p>	25
事後学習課題	<p>振り返りシートの作成と事後アンケートの入力（内面化） ※学内の方は研修会場で記入できます。学外から Zoom で参加されている方は、接続切断後各自でご記入のうえ研修当日を含めた 3 日以内にメールでご提出ください。</p>	10
参考文献	<p>1. 授業改善の実践事例（高等教育機関） <a href="https://www.jpo.go.jp/news/kokusai/developing/training/textbook/index.html">https://www.jpo.go.jp/news/kokusai/developing/training/textbook/index.html</a> 上記経産省 HP「項目 43 番（日文・英文）」の、知的財産の教育と普及啓発（日本の事例）」は、特定領域の授業の進め方と改善の実践例として参考になります。 2. 知財創造教育の概念と指導案（初等中等教育機関） 初等中等教育の授業改善事例は、下記内閣府 HP から配信されるテキスト「新しいモノ・コトを楽しく創る知財創造教育」も参考になります。教育学部の先生は、こちらの参照もお勧めします。 <a href="https://www.kantei.go.jp/jp/singi/titeki2/tizaikyokuiku/program/siryoku25.pdf">https://www.kantei.go.jp/jp/singi/titeki2/tizaikyokuiku/program/siryoku25.pdf</a> 3. 授業時に使用する短時間の動画教材事例 <a href="http://www.kim-lab.info/ipedu/tmate_01/tmate_01.html">http://www.kim-lab.info/ipedu/tmate_01/tmate_01.html</a></p>	

2020年度ブラッシュアッププログラム・講座概要

領域3 教育の実践	講座名：学生の主体性を引き出すWS型授業の作り方 形式：講義と演習(対面/ZOOM) 時間：90分	開講日時	
		12月16日(水) 18:15~19:45 ソラティオスクエア CTL 研修室	
講師	小林 一木 (ベネッセ教育総合研究所)		
到達目標	1. 学生の主体性を引き出す「問い」をつくるためのフレームを知り、授業で学生に「問いづくり」をさせることができる。(3-1-1 対応) 2. 「問いづくり」のワークショップ体験、分析を通して、ワークショップデザインの基礎知識を獲得し、自らの授業デザインに取り入れることができる。(3-2-2 対応)		
事前学習課題	日ごろの授業で多くの発問をされていると思いますが、学生が深く考えたり、活発に対話、議論した「問い」を1つ事前に共有フォームに入力してきてください。 ※共有フォームは、参加される先生に事前にご連絡します。		
講座の流れ			分
セッション1	<p><b>*学外の方は18:10にZoomに接続してください。</b></p> <p>①授業導入のワーク(共同化) ・問いづくりのトレーニング</p> <p>②インスピレーショントーク(共同化、表出化) ・現状のアクティブラーニング型授業への問題提起 ・授業での問いの役割 ・問いの定義</p>		20
セッション2	<p>③「問いづくり」のワークショップ体験(表出化、連結化)</p> <p>④ワーク：事前に準備いただいた「問い」の分析 ※ワーク内容は変更する場合があります。</p>		50
セッション3	<p>⑤ワークショップデザインのポイント(連結化) ・ワークショップデザインのポイント(オフライン/オンライン)</p> <p>⑥本日のまとめと振り返り</p>		20
事後学習課題	<p>・今回の講座を参考に、学生の主体性を引き出す問いをデザインし、授業で発問した際の学生の反応を観察してください。(内面化)</p> <p>・事後アンケートの記入</p> <p>※学内の方は研修会場で記入できます。学外からZoomで参加されている方は、接続切断後各自でご記入のうえ研修当日を含めた3日以内にメールでご提出ください。</p>		
参考文献	<p>1. 山内祐平、森玲奈、安斎勇樹『ワークショップデザイン論—創ることで学ぶ』慶應義塾大学出版会(2013)</p> <p>2. 溝上慎一『アクティブラーニングと教授学習パラダイムの転換』東進堂(2014)</p> <p>3. 上田信行、中原淳『プレイフル・ラーニング』三省堂(2012)</p> <p>4. 中野民夫『ワークショップ—新しい学びと創造の場』岩波新書(2001)</p> <p>5. ダン・ロスステイン、ルース・サンタナ著、吉田新一郎訳『たった一つを変えるだけ：クラスも教師も自立する「質問づくり」』新評論(2015)</p> <p>6. ハル・グレガーセン『問いこそが答えだ』光文社(2020)</p> <p>7. 安斎勇樹、塩瀬隆之『問いのデザイン』学芸出版社(2020)</p> <p>8. 井澤友郭『「問う力」が最強の思考ツールである』フォレスト出版(2020)</p>		

Program for Further refinement 2020 • Course Outline

Domain 5 . Educational Development /Career Development	Course : 「Teaching in English/English Syllabus Design」 Style : Workshop (Face to face/Online) Time : 120min. ※この講座は英語で行われます。 Delivered in English	Date and Time December 21 (Mon) 16:30—18:30 (Connect to Zoom at 16:25) Soratio Square TNec041
	Instructor	Mr. Todd Enslen (Tohoku University)
Course Objectives	<ol style="list-style-type: none"> <li>To understand what a student-centered syllabus consists of through analysis of syllabi from other institutions</li> <li>To build English vocabulary necessary to create a syllabus and to introduce that syllabus to students.</li> <li>To expand the participants' understanding of best practices in teaching through the syllabus development process.</li> </ol>	
Preparation	<ol style="list-style-type: none"> <li>Watch the following YouTube video where teachers explain their beliefs about what should be in a syllabus. <a href="https://www.youtube.com/watch?v=Mxln5qBDr94">https://www.youtube.com/watch?v=Mxln5qBDr94</a></li> <li>Create a list of the information you, as the teacher, are required to have in your syllabi. Is there any other information that you should include on your syllabus?</li> <li>Please bring a syllabus from one of the classes that you teach to share and compare with others.</li> </ol>	
Course Contents		mi n.
session 1	<p>*Participants from other than Teikyo University should connect to Zoom at <b>16:25</b>.</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>Icebreaker</li> <li>Introduction of your class syllabus in groups and comparisons of similarities and differences</li> <li>Group discussions of further information needed by students</li> </ol>	30
session 2	<ol style="list-style-type: none"> <li>Sharing other information participants think should be included on syllabi</li> <li>Analyzing examples of student-centered syllabi from a variety of institutions</li> <li>Listing categories not considered in session 1 and why they are important to include on the syllabi</li> </ol>	30
session 3	<ol style="list-style-type: none"> <li>Analyzing the vocabulary of the syllabus and expressions that students might possibly use when asking questions regarding the syllabus</li> <li>Providing examples of specific vocabulary and building an understanding of how they fit into best practices of teaching and learning.</li> </ol>	50
Closing	<p>Final comments and questionnaire</p> <p>*If you are on campus, you can fill out a questionnaire at the training venue. If you participate in Zoom from off-campus, please fill out after disconnecting yourself.</p>	10
References	Grunert O'Brien, J., Millis, B.J., and Cohen, M.W. (2008). <i>The Course Syllabus: A Learner-Centered Approach (2nd Edition)</i> . San Francisco: Jossey-Bass.	

2020年度ブラッシュアッププログラム・講座概要

5. 継続的な教育開発と自己改善・キャリア開発	講座名：「教授・学修活動の高度化に向けて～SoTL（教育研究）に取り組んでみよう」 形式：講義（動画）と演習（対面/Zoom） 時間：120分（※集中講座）	開講日時
		2021年2月10日（水） 13：00～15：00 （集合は13：25） ソラティオスクエア CTL 研修室
講師	井上 史子、安岡高志、新原将義（以上、高等教育研究）	
到達目標	1. 学生や教育プログラムの実態、社会の状況、自らの教育活動を統合的に振り返り、改善しようとする。（5-2-1 対応） 2. 大学のDP（自分流の達成）や教育理念（実学・開放性・国際性）に基づいた、組織的な教育開発に、同僚と共同して参画しようとする。（5-2-3 対応）	
事前学習課題	1. 事前配布のワークシートを作成の上、2部印刷して持参してください。（作成データは事前に事務局に提出ください） 2. 研究手法や研究倫理に関する以下の参考文献や資料等にできるだけ目を通して来てください。 3. 研究課題や手法の作成を行いますので、必要な方はPCなどを持参して下さい。	
講座の流れ		分
セッション1 （動画視聴、対面/Zoom） （井上）	<p>【個人活動】当日までに各自でセッション1-①の動画を視聴して下さい。研修当日の13:00より会場で視聴することも可能です。</p> <p>①講師より、SoTLに関する解説をします。（共同化、30分）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・SoTLに取り組む意義や、プロセス、研究倫理について概説します。</li> </ul> <p>【視聴課題】動画を視聴し、自身が考えるSoTLとFDとの違いについて簡潔にまとめてみましょう。（セッション1で使用します）</p> <p>【グループ活動】13:30より開始します。学内の方は13:25迄に会場に集合ください。学外の方はZoomにログインしてください。</p> <p>②自己紹介（共同化、5分）</p> <p>③持参したワークシートと視聴課題をもとに、授業や学生の学習に関する自身の関心や問題点を発表する（共同化・表出化、15分）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・教育研究をスタートする前に、自身が「何に関心があるのか」「何が問題だと思っているか」を明確にします。</li> </ul>	50
セッション2 （対面/Zoom） （安岡）	<p>【個人活動】</p> <p>④研究テーマ（Research Question）を立てる（表出化、連結化、10分）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・自身が取り組んでみたい研究テーマを1つ決めます。</li> </ul> <p>⑤研究目的の設定と手法の選択など研究計画を立てる（連結化、30分）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ワークシートを使い、研究計画を設定します。</li> <li>・適宜講師より、研究手法（量的手法、質的手法等）に関する情報提供を行います。</li> </ul>	40
セッション3 （対面/Zoom） （新原）	<p>【グループ活動】</p> <p>⑥得られたデータ等をどのように扱うかを考えます（連結化、20分）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・研究プロセスで得られた量的・質的データの取り扱いについて考えます。</li> <li>・グループでそれらの方法を紹介し合い、問題点などを検討します。</li> </ul> <p>⑦SoTLプロジェクトの紹介（10分）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・本学におけるSoTLプロジェクトの募集の概要について説明します。</li> </ul>	30
事後学習課題	<p>【個人活動】（内面化）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・振り返りシートの作成と事後アンケートの入力</li> </ul> <p>※学内の方は研修会場で記入できます。学外からZoomで参加されている方は、接続切断後各自でご記入のうえ研修当日を含めた3日以内にメールでご提出ください。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・設定した研究課題について、ぜひ実際に取り組んでみましょう。</li> </ul>	
参考文献	<p>1. 東北大学大学教育センター、[SDP シリーズ第2回]「リスクマネジメントとしての研究倫理の取り組み（チャプター1）」講師：羽田 貴史（東北大学） <a href="http://www.ihe.tohoku.ac.jp/CPD/PDPonline/archive/detail.php?id=85">http://www.ihe.tohoku.ac.jp/CPD/PDPonline/archive/detail.php?id=85</a></p> <p>2. 東北大学大学教育センター、「研究評価の手法とマネジメント（チャプター1）」講師：林 隆之（大学改革支援・学位授与機構） <a href="http://www.ihe.tohoku.ac.jp/CPD/PDPonline/archive/index.php?page=2&amp;search=&amp;c=&amp;k=31&amp;p=">http://www.ihe.tohoku.ac.jp/CPD/PDPonline/archive/index.php?page=2&amp;search=&amp;c=&amp;k=31&amp;p=</a></p> <p>3. ISSoTL (International Society for the Scholarship of Teaching and Learning) ホームページ <a href="https://issotl.com/about-issotl/">https://issotl.com/about-issotl/</a></p>	

- |   |
|---|
| 4. 米国学術研究会議監修、R. J. シャベルソン/L. タウン編、齊藤智樹翻訳 『科学的な教育研究をデザインする』 北大路書房、2019 年  |
| 5. SoTL Canada, <a href="https://sotlcanada.stlhe.ca/sotl-resources/">https://sotlcanada.stlhe.ca/sotl-resources/</a> |